

## 1 課題を抱える業務の内容

有収率を向上させるためには、「不明水」の主原因である漏水の早期発見・早期修理が効果的です。

現在の漏水調査は、主に技術職員の耳により漏水音を判別する音聴法が採用されていますが、人的中心の漏水調査手法に加え、遠隔で連続的にモニターできるシステムの導入が期待されています。



## 2 課題の詳細

給水スマートメータに加えて、流量・流向・水圧の毎分データを計測できる配水小管スマートメータ（流量計・水圧計）の導入検討が進められており、リアルタイムな配水状況の把握が可能となります。これらを活用した遠隔で連続的に常時監視できるシステムを構築することで、より迅速に配水状況の把握が可能となり、漏水エリアの効率的な特定など、不明水の削減が期待できます。

## 3 こんな技術を求めています！

- 漏水や配水量の変化をトータルでマネジメントできる仕組み
- 水道管路の漏水又はその疑いのあるエリアを遠隔で迅速に特定できる技術
- 配水量や有収水量の変化の要因分析ができる技術

## 4 技術の導入により代替が期待される業務

メータ下流側の漏水調査（給水スマートメータによる代替）